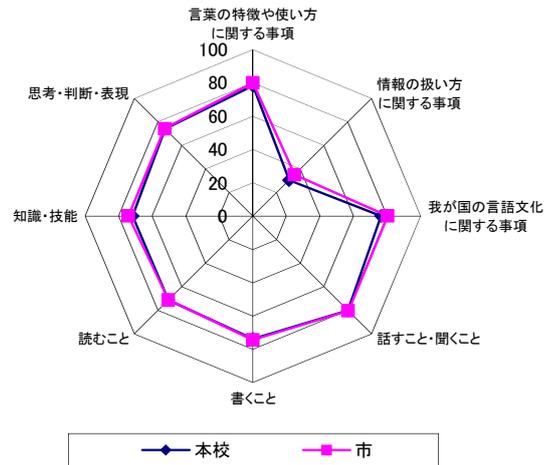


# 宇都宮市立古里中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	78.3	80.0	76.5
	情報の扱い方に関する事項	30.6	35.2	29.3
	我が国の言語文化に関する事項	76.4	80.4	63.1
	話すこと・聞くこと	80.1	80.4	77.7
	書くこと	73.8	74.3	62.9
	読むこと	71.3	71.2	65.8
観点別	知識・技能	71.7	74.1	68.4
	思考・判断・表現	74.1	74.3	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



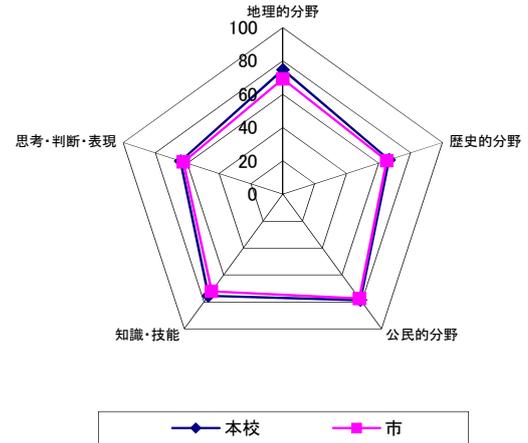
## ★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>○漢字の読み書きでは、市のポイントを上回っている。</li> <li>●全体では市のポイントを1.7ポイント下回った。</li> <li>●用言の活用や古典、敬語が市のポイントを下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○漢字の読み書きについては、今後も授業内でのミニテストや自主学習を通して、定着を図っていく。</li> <li>●用言の活用を含め、文法に関する箇所は、取り扱う時数を増やしたり、問題演習を増やしたりしていく。</li> </ul>
情報の扱い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>○情報と情報の関連を捉え、論旨の展開の仕方に関する問題では市平均を2ポイント上回っている。</li> <li>●情報をもとにして、自分の考えを書く問題では、その平均を10ポイント下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●文章を読み、それらの情報をまとめたり、補ったりする問題では正答率が高いが、そこに自分の考えが加わってくると正答率が落ちる傾向がある。よって、今後は授業において、自己の考えを表す時間を意識的に設けるようにする。</li> </ul>
我が国の言語文化に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>○古語の現代での意味を問う問題では、市の平均を上回っている。</li> <li>●歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題では、市の平均を下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すことは、古典を取り扱う際に教科書の本文を使って行うことを今以上に増やしていく。また、古語の現代での意味は単語テスト等を用いて、今後も定着を図っていく。</li> </ul>
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>市平均とほぼ同じである。</li> <li>○話し方の共通点を見つける問題では100%に近い正答率であった。</li> <li>●司会者の進行の工夫についての問題では、市の平均を下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●話の聞き方については、普段の授業でも意識をするように声掛けを行っていく。そのうえで、メモの取り方やメモを取るべき箇所について、自分で気づくことができるように指導する。</li> </ul>
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>○作文の問題では、全ての観点において、市の平均を上回っている。</li> <li>●与えられた情報から、自分の考えを分かりやすく伝える問題では市の平均を下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●作文の作成については、指定された条件も含めてよく書けている。しかし、自分の考えの明確さでは、数値が下がっている。そのため、普段から自分の考えをしっかりと持ち、それを表現する授業を取り入れていく。</li> <li>●自分の考えを分かりやすく伝えるには、考えや根拠などを明確にしていく必要がある。授業の中でそれらを明らかにしてから文を書くという順序を徹底して取り組んでいく。</li> </ul>
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>市平均とほぼ同じである。</li> <li>○説明的文章では、全問題で市の平均を上回っている。</li> <li>●物語文の内容理解の問題では、全体的に正答率が低くなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●文章問題については、本文を正確に読むこと、問題を正しく読み取り、何を答えればよいかを把握することを重視して取り組んでいきたい。</li> <li>●その上で、文章で答える際の答え方や表現の仕方などについても取り組んでいく。</li> </ul>

# 宇都宮市立古里中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	74.7	69.2	61.5
	歴史的分野	66.5	65.1	59.1
	公民的分野	78.7	77.6	71.6
観点別	知識・技能	75.6	72.2	66.8
	思考・判断・表現	64.1	62.3	53.2



※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。  
 (社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)

## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

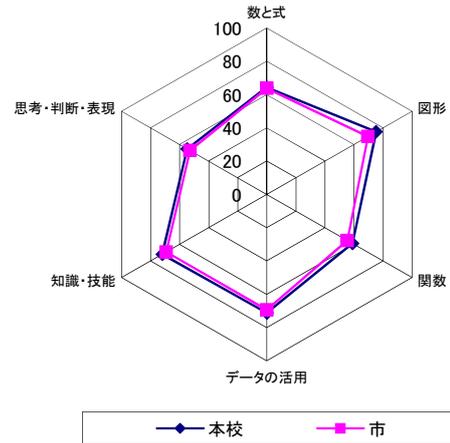
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	全体として市の正答率の平均を上回った。 ○知識・技能の問題の正答率は軒並み平均値が高かった。 ●資料を基に表現したり、判断したりする問題の正答率が低かった。	・知識・技能の問題の正答率が高かったことから、授業で取り組んでいる小テストを継続していく。 ・授業の中で雨温図や統計図などの資料から特徴を表現したり、判断をする活動を多く取り入れていく。また、資料の読み取りの方法や読み取る際の観点を授業の中で指導していく。
歴史的分野	全体として市の正答率の平均を上回った。 ○知識・技能の問題の正答率は軒並み平均値が高かった。 ●近世(江戸時代)の問題の正答率は低かった。 ●資料を基に表現したり、判断したりする問題の正答率が低かった。	・知識・技能の問題の正答率が高かったことから、授業で取り組んでいる小テストを継続していく。 ・授業の中で歴史的な資料から特徴を表現したり、判断をする活動を多く取り入れていく。また、資料の読み取りの方法や読み取る際の観点を授業の中で指導していく。 ・江戸時代の正答率が低かったので、小テストを含めた復習の時間を取り入れていく。また、前後の時代のつながりを意識して授業を展開していく。
公民的分野	全体として市の正答率の平均を上回った。 ○知識・技能の問題の正答率は軒並み平均値が高かった。 ○資料を基に表現したり、判断したりする問題の正答率が市の平均を上回った。 ●新しい人権についての問題は市の平均を下回った。 ●憲法改正の問題の正答率は低かった。	・新しい人権や憲法改正の手続きなど、生徒が苦手な箇所を重点的に補足する時間を取り入れていく。特に、教科書や資料集の資料を効果的に使うような授業を展開していく。

# 宇都宮市立古里中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	64.3	63.7	61.5
	図形	75.2	69.6	61.1
	関数	59.0	55.4	43.5
	データの活用	71.2	69.3	64.2
観点別	知識・技能	72.0	69.2	65.3
	思考・判断・表現	54.8	52.9	42.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

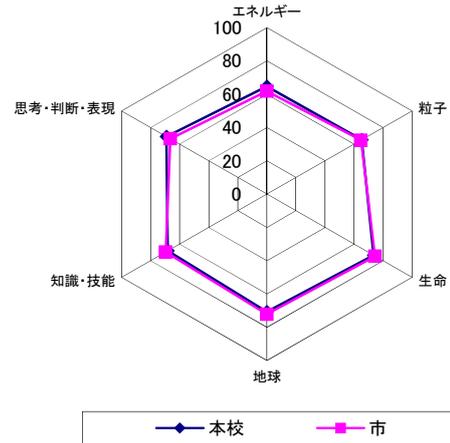
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>市の平均を0.6ポイント上回っている。</p> <p>○平方根の大小に関する問題や与えられた文章問題に対して、適切な連立方程式を立式する問題は、特に市のポイントを大きく上回った。</p> <p>●乗法の公式を使って式を簡単にする問題や<math>(x+m)^2 = n</math>の形の2次方程式を解く問題では、市のポイントを下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な計算を着実に定着させるために、今後も個別指導や反復練習などの充実を図る。</li> <li>2次方程式の解き方を再確認し定着を図る。1年生の学習の1次方程式から関係を見つけて方程式をつくる練習をさせ、連立方程式、2次方程式と発展していき定着させる。</li> </ul>
図形	<p>市の平均を5.6ポイント上回っている。</p> <p>○三角形の合同条件についての理解をみる問題や示された内容の根拠となる図形の性質についての理解をみる問題など、図形領域のすべての問題で市のポイントを上回った。</p> <p>●証明の必要性和意味について理解しているかをみる問題の正答率が、49.5%と半数を下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>証明に関する問題の正答率が最も低かったため、過程と結論の意味、証明のしくみや進め方をもう一度復習させ、理解を深めさせる。</li> </ul>
関数	<p>市の平均を3.6ポイント上回っている。</p> <p>○2元1次方程式の解を座標とする点の集合は、直線として表されることを理解しているかをみる問題や関数<math>y=ax^2</math>における変化の割合を求める問題は、特に市のポイントを大きく上回った。</p> <p>●エアコンAとエアコンBについて、式やグラフを用いて、2つの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明する問題では、3問中2問が市のポイントを下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関数についての基本的な内容、<math>x</math>と<math>y</math>の関係を表す表、式、グラフの関係などをしっかりと理解させるとともに、発展的な課題に取り組みさせる機会を多くもち、基本的な知識、技能を活用することで、その面白さや便利さを体験させる。</li> </ul>
データの活用	<p>市の平均を1.9ポイント上回っている。</p> <p>○確率を求める問題や箱ひげ図と四分位範囲についての理解をみる問題では、市のポイントを上回った。</p> <p>●箱ひげ図やヒストグラムからデータの分布を読み取る問題は、市のポイントを下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>用語の意味や求め方を再確認する。</li> <li>資料を活用し、説明する力を身に付けさせるために、授業の中で説明を書いたり、説明し合ったりする時間を十分に確保する。</li> <li>学習した内容を活用する力を高めるために、身近な事象やゲームなどを取り上げ、興味・関心をもたせる工夫をしながら課題に取り組みさせる。</li> </ul>

# 宇都宮市立古里中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	64.8	61.8	60.6
	粒子	65.4	64.8	54.0
	生命	73.5	74.5	66.6
	地球	70.7	72.1	63.0
観点別	知識・技能	68.2	69.6	63.4
	思考・判断・表現	69.1	66.5	57.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

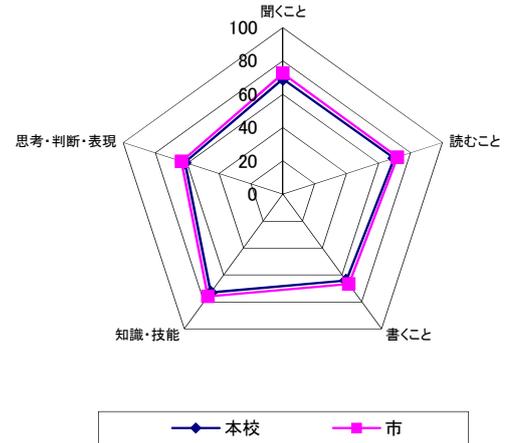
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<p>平均正答率は他の領域より低いですが、市の平均を上回っている。</p> <p>○光の性質に関する2つの設問では、どちらも市の平均を大きく上回っている。</p> <p>○磁界から受ける力の大きさを大きくする方法を答える記述問題では、市の平均を13.3ポイント上回っている。</p> <p>●電流がつくる磁界の向きに関する設問では、市の平均を9.1ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度に引き続き、実験時間を十分に確保し、現象を見て実感させる授業づくりを意識していく。</li> <li>・エネルギー分野では、作図をする問題もあるので、見た現象と作図が一致するよう、問題演習を多く取り入れながら指導していく。</li> <li>・関連のある現象や事物を例示することで、身近なものとして捉えられるよう指導を工夫していく。</li> </ul>
粒子	<p>平均正答率は「生命」・「地球」領域より低いですが、市の平均を上回っている。</p> <p>○気体の性質に関する3つの設問では、どれも市の平均を大きく上回っている。</p> <p>●酸化銀の還元やイオンの数の変化などに関する設問では、市の平均を下回るものがいくつかある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・粒子領域は、実験によって変化が見て分かるものが多いため、実験を有効に取り入れるとともに、考察する時間を確保して思考力や判断力を付けていけるようにする。</li> <li>・物質の成り立ちが理解できるよう、原子や分子、イオンのモデルを使って考える時間をつくり、1年生から3年生までの学習のつながりを意識した授業や指導をしていく。</li> </ul>
生命	<p>平均正答率は他の領域より高いが、市の平均を下回っている。</p> <p>○血液の成分や循環に関する設問では、市の平均より10ポイント以上上回っている。</p> <p>●コケ植物とシダ植物の分類に関する設問では、市の平均より8.1ポイント下回る結果となり、植物の分類に関する知識が定着していない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生命領域では知識の習得が主な学習活動になりがちである。知識を得るだけでなく、共通点や相違点に気付かせたり、それらをもとに自分で分類したりする活動を取り入れていく。</li> <li>・この分野で習得する知識の量はとても多いので、しっかりと整理できるよう、問題演習や自分でまとめを行う時間などを確保していく。</li> </ul>
地球	<p>平均正答率は「エネルギー」・「粒子」領域より高いが、市の平均を下回っている。</p> <p>○地震発生の時刻や震源からの距離を求める問題では、市の平均を5ポイント以上上回っている。</p> <p>●寒冷前線の前線面と雲のようすに関する設問では、市の平均を10ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球領域に関する学習は、スケールの大きな内容が多く、授業で再現することが難しい現象が多い。そこで、映像資料やイメージ動画などを有効活用し、実感を伴った理解が得られるような授業展開を工夫していく。</li> <li>・天気や地震などに関する学習では、日常で体験していることの原理を学ぶので、学習時期に関わらず普段から関心を持って生活できるような言葉かけをしたり、掲示物などを活用したりする。</li> </ul>

# 宇都宮市立古里中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	69.2	72.5	70.5
	読むこと	69.9	71.9	66.9
	書くこと	64.2	66.8	59.7
観点別	知識・技能	73.1	76.0	73.9
	思考・判断・表現	61.4	63.6	55.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○対話の内容を聞き、その内容を理解して応答する問題の正答率は、市の平均と同等あるいは上回っている。</p> <p>●英文を聞き、内容や要点を捉える問題では、市の平均を下回っている問題が多い。情報量が多い英文では、正答率が低くなっている。</p>	<p>・授業のウォームアップなどで興味をひくような話題を取り上げた対話活動をするなど、生徒が場に応じた応答に自然に慣れるよう工夫する。</p> <p>・まとまった英文を聞き取って内容を把握することを苦手とする生徒が多いので、ALTとの対話活動や音声教材では比較的長い英文を聞かせ概要を捉える活動を増やしていく。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、参考値は上回るが市の平均より低い。</p> <p>○対話文の流れと資料の情報・条件をもとに適切な答えや発言を選ぶ問題では、正答率が高くなっている。</p> <p>●対話の中で基本的な語形・語法を理解して使う問題は正答率が低く、特に受け身の文を使う問題では市の平均を10ポイント下回っている。</p>	<p>・授業中の活動で、様々なタイプの英文を読む機会を増やし、まとまった英文を読むことに慣れさせる。</p> <p>・2年生中盤から3年生前半の英文法事項についてはつまづく生徒が多いので、既習事項のドリル練習を授業に位置づけるなど繰り返し学習することで基礎の定着を図る。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、参考値は上回るが市の平均より低い。</p> <p>○単語の並べ替えの問題の正答率は4問中3問で8割を越えている。</p> <p>●対話の流れに沿った英文を正確に書く問題では、全国正答率や市の平均と同様、極端に正答率が低い。</p>	<p>・学習した文法事項や語彙を活用して場や条件に合う英文を書くことができるよう、さまざまなテーマで英作文を書く演習を多く取り入れていく。</p> <p>・英語で書きたいことを正確に書くことができるよう、ALTやクロームブック、辞書を有効に活用しながら書く習慣を身に付けさせる。</p>